

問1 日本銀行が政府の銀行として管理する、国の税収などを指す公的な資金を何という？

1. 準備預金 2. 当座預金 3. 国庫金 4. 普通預金

問2 政府が資金を調達するために発行する債券で、日本銀行が募集や支払いを代行するものを何という？

1. 社債 2. 地方債 3. 国債 4. 外国債

問3 日本円と外国の通貨を交換する際、1単位あたりの円の価値が下がっている状態を何という？

1. 円安 2. 円高 3. インフレ 4. デフレ

問4 民間銀行の経営が行き詰まった際、日本銀行が資金を貸し出すことで連鎖倒産を防ぐ役割を何という？

1. 中央銀行 2. 政策金融機関 3. 市中銀行 4. 最後の貸し手

問5 お金に余裕がある人から、必要としている人へ資金を融通する仕組みを何という？

1. 金融 2. 財政 3. 貿易 4. 投資

問6 物価が継続的に上昇する中で、消費者が自分の持っているお金でどれだけのモノを買うかという力を何といいますか？

1. 供給力 2. 生産力 3. 購買力 4. 競争力

問7 日本銀行が景気や物価を安定させるために、金利の調整などを行う経済上の取り組みを何という？

1. 財政政策 2. 金融政策 3. 公共政策 4. 産業政策

問8 継続的に物価が下がり続け、相対的にお金の価値が上がってしまう経済状態を何という？

1. デフレーション 2. スタグフレーション 3. ハイパーインフレ 4. インフレーション

問9 日本銀行がかつて金融政策の手段として用い、市中銀行への貸出金利の基準としていた金利を何という？

1. 公開市場操作 2. 預金準備率 3. 法定準備金 4. 公定歩合

問10 銀行が預金を受け入れ、それを貸し出すことを繰り返すことで、社会全体で通貨の量が増える仕組みを何という？

1. 資産運用 2. 信用供与 3. 財政投融资 4. 信用創造

問11 円安が進んだとき、海外での売上を日本円に換算した際の受け取り金額が増加し、利益を得やすくなるのはどのような企業ですか？

1. 輸出企業 2. 卸売業者 3. 小売店 4. 輸入企業

問12 円安によって海外からの資源や食料品の購入コストが引き上げられ、家計に負担をかける要因となる経済現象は何ですか？

1. 物価 2. 為替 3. 金利 4. 賃金

問13 円高によって収益が悪化しやすい、製品を海外へ売る産業を何という？

1. 輸入 2. 輸出 3. 投資 4. 消費

問14 税金の受け入れや国の予算の管理など、政府の資金を取り扱う日本銀行の役割を何という？

1. 発券銀行 2. 市中の銀行 3. 銀行の銀行 4. 政府の銀行

問15 景気の悪化やデフレからの脱却を目指し、市場への資金供給を増やす政策を行う中央銀行を何という？

1. 大蔵省 2. 財務省 3. 金融庁 4. 日本銀行

答え合わせ・解説

問1	答え 3 国庫金	国庫金は、私たちが納めた税金や国が調達した借金などを指し、日本銀行内の口座で管理されています。国が道路を作ったり公務員に給与を払ったりする際は、この口座から必要な金額が引き出され、経済活動に使われます。
問2	答え 3 国債	国債は国が発行する債券で、購入者には利子が支払われます。日本銀行はこの国債の発行事務や、満期を迎えた時の元利金の支払いを代行する役割を担っています。これにより、国債の流通が安定し、スムーズな資金調達が可能になります。
問3	答え 1 円安	円安とは「1ドル=100円」から「1ドル=120円」へ変化するように、外貨を買うために必要な円の量が増えることを指します。これは、円が外貨に対して安くなっていることを意味します。
問4	答え 4 最後の貸し手	民間銀行同士でも資金の貸し借りができない異常事態において、日本銀行が資金を貸し出すことで破綻を回避させます。これが「最後の貸し手」としての機能です。この存在があることで、預金者は安心して銀行にお金を預け続けられます。
問5	答え 1 金融	預金者からお金を預かり、それを企業や個人へ貸し出す銀行などの金融機関がこの仲介役を担います。お金の貸し手は利息を受け取り、借り手は事業や購入のために資金を得ることで、経済活動が活発になります。
問6	答え 3 購買力	購買力とは、お金を使ってモノやサービスを購入する能力のことです。物価が上がると、これまでと同じ金額を払っても以前ほど多くのモノが買えなくなります。つまり、実質的な購買力が低下し、消費者は生活水準を維持することが難しくなります。
問7	答え 2 金融政策	日本銀行が行う金融政策は、民間銀行が日本銀行から借りる際の金利を調整したり、市場に出回るお金の量を操作したりすることで、景気をコントロールします。金利を下げれば企業は投資しやすくなり、金利を上げれば景気の過熱を抑える効果があります。
問8	答え 1 デフレーション	デフレーションでは、モノの価格が下がり続けるため、企業は売上が減少します。また、お金の価値が上がるため、消費者は将来の値下げを期待して買い控えを行い、さらなる不況を招く悪循環に陥りやすいのが特徴です。
問9	答え 4 公定歩合	日本銀行が公定歩合を引き下げると、銀行が日銀から資金を借りやすくなり、結果として銀行から企業や個人への貸出金利も下がるため、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が増加します。逆に引き上げるとお金の流通量が減る仕組みです。
問10	答え 4 信用創造	銀行に預けられたお金の一部が借り手へ渡り、その借り手が別の銀行に預け、その銀行がまた貸し出す…という過程を繰り返すことで、元の現金以上の預金が生まれます。このように金融機関が預金を生み出すことを信用創造と呼びます。
問11	答え 1 輸出企業	円安になると、海外で商品を販売して得た外貨を日本円に替えた際、以前より多くの日本円を受け取ることができます。そのため、自動車メーカーや電機メーカーなど、海外での売上比率が高い輸出企業にとっては、業績が向上する追い風となります。
問12	答え 1 物価	円安になると、海外から輸入する品物の価格が日本円換算で高くなります。このコスト増を避けるために販売価格が引き上げられ、結果として国内全体の物価が上昇します。これが家計を圧迫する大きな要因となります。
問13	答え 2 輸出	円高になると、海外で販売する製品の現地通貨建て価格を高く設定せざるを得ず、販売量が落ちるか、同じ価格で売れば円換算の利益が減るといった二重の苦しみを味わいます。これにより、輸出産業の収益は大きく悪化しやすくなります。
問14	答え 4 政府の銀行	日本銀行は政府の預金を預かり、国税の受け入れや公共事業費などの支払いを処理します。この役割を担うことで、国の資金を安全かつ効率的に運用することが可能になっています。政府との連携が不可欠であり、中央銀行としての重要な職務の一つです。
問15	答え 4 日本銀行	日本銀行は、日本で唯一の紙幣発行権を持つ「発券銀行」であり、「政府の銀行」として国庫金の出納を扱い、「銀行の銀行」として一般の金融機関へ資金の貸し出しを行います。景気が悪い時は金利を下げるなどして、世の中に出回るお金の量を増やす政策を実施します。